

C-19 衣服設計の石めの体形分類の研究 側面シルエットの分類
京都せ大家政 土井サチヨ 名古屋せ大 ○坂倉園江 柴村恵子

目的 衣服を設計するに當つてサイズはその基礎となるが、リムノフ体形と姿勢を
加味せよば合目的な設計に到達し得ないと思える。存せざるば体形は衣服設計に降
して、これに寄与する多くの要因を内包しているからである。故に多目的な用途を包
含している衣服のための体形を適確に分類することは困難であるといえる。そこで今
回は体幹部の基本作図法と人体側面シルエットとの関連について検討することを目的
に研究を進めた。

方法 シルエットターによって撮影した人体の陰画写真の側面を用いて、前面、後面
の出入りの状態を考察して、作図と関連づつようと試みた。そこで前面においては乳
頭点、後面においては肩甲骨棘突起を基準とした垂直線を引き、前面は頸高点、胸圍
線位、腹圍線位、後面は頸確点、胸圍線位、腰圍線位における垂直線よりの出入りを
測定して、人体の側面シルエットを分類した。

結果 上記した垂直線より出入りの寸法を用いて衣服設計における立体化の基本を
見出すために、前面、後面それぞれ寸法の組合せ方を検討した結果、妥当と思え
る組合せ方を見出した。この妥当性はシーチンクによる実験において実証すること
が出来た。